

第2章

焼津市の現状と課題

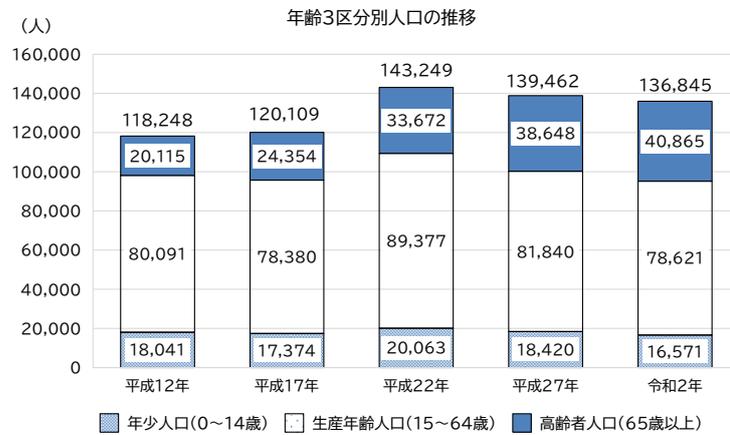
1 焼津市の現状

(1) 焼津市におけるスポーツを取り巻く環境

① 人口・世帯の状況

【年齢3区分別人口の推移】

年少人口と生産年齢人口は、平成 22（2010）年以降徐々に減少しており、令和 2 年（2020）年には年少人口は 16,571 人、生産年齢人口は 78,621 人となっています。また、高齢者人口は平成 12（2000）年の 20,115 人から徐々に増加しており、令和 2（2020）年には 40,865 人となっています。

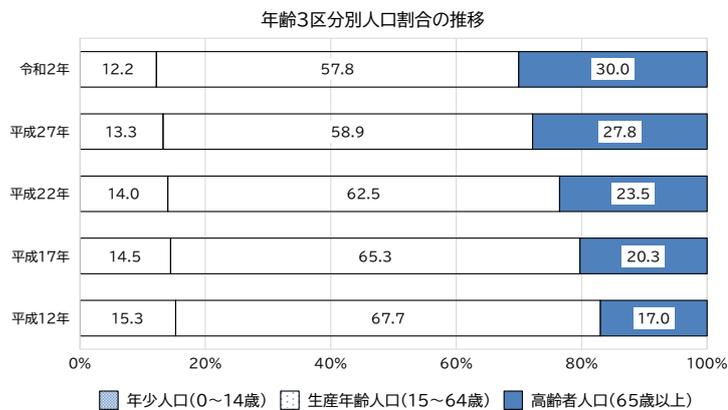


※総人口は年齢「不詳」を含むため、年齢区分別人口の合計と総人口の合計は一致しない

出典：国勢調査

【年齢3区分別人口割合の推移】

年少人口と生産年齢人口の割合は減少しており、令和 2（2020）年には年少人口は 12.2%、生産年齢人口は 57.8%となっています。その一方で高齢者の割合は平成 12（2000）年から増加しており令和 2（2020）年には 30.0%となっています。



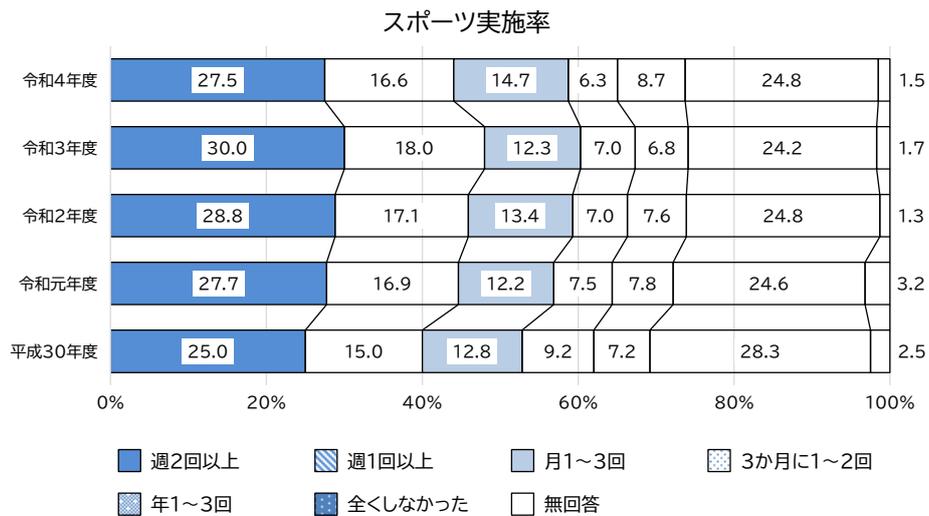
※年齢「不詳」を除いて算出

出典：国勢調査

② 市民のスポーツ実施状況

【スポーツ実施率の推移】

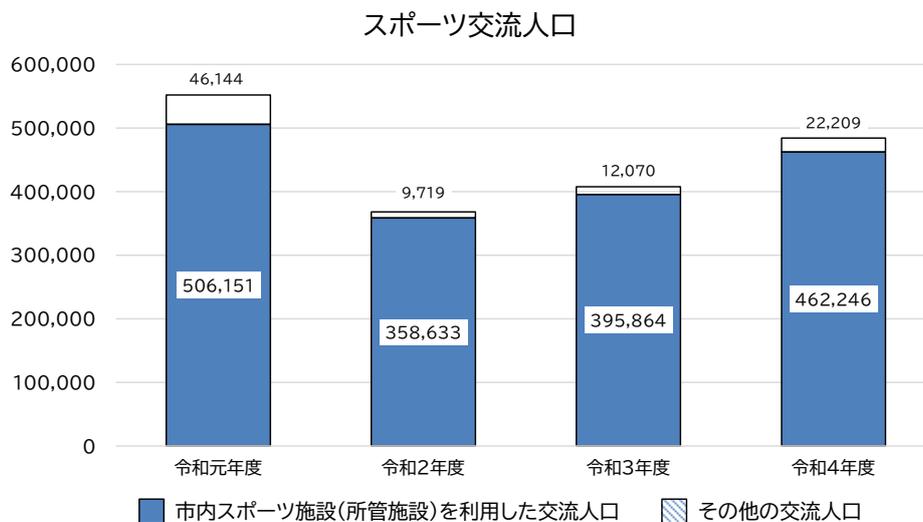
週1回以上スポーツをしている人の割合は平成30(2018)年度以降増加していましたが、令和3(2021)年度の48.0%をピークに減少し、令和4(2022)年度では44.1%となっています。また、スポーツを全くしなかった人の割合は令和元(2019)年度以降ほぼ横ばいで推移しています。



出典：市民アンケート

【スポーツ交流人口の推移】

市内スポーツ施設(所管施設)を利用したスポーツ交流人口は令和2(2020)年度に減少し、358,633人となったものの令和3(2021)年度以降増加し、令和4(2022)年度では462,246人となっています。



出典：焼津のスポーツ「令和4年度報告書」

(2) 市民へのスポーツに関するアンケート調査の結果

● 市民へのスポーツに関するアンケートの概要

【調査目的】 スポーツに関する市民の実施状況や意向を把握し、焼津市スポーツ推進計画策定の基礎資料とすることを目的として実施

【調査対象】 焼津市 LINE 登録者、焼津市スポーツ協会加盟団体、焼津市スポーツ推進委員、市内小中学生

【調査期間】 令和5（2023）年7月21日～令和5（2023）年8月14日

【調査方法】 調査票配布・回収、WEB フォームによる調査方法

【回収状況】

市民	605 件
小中学生	830 件
合計	1,435 件

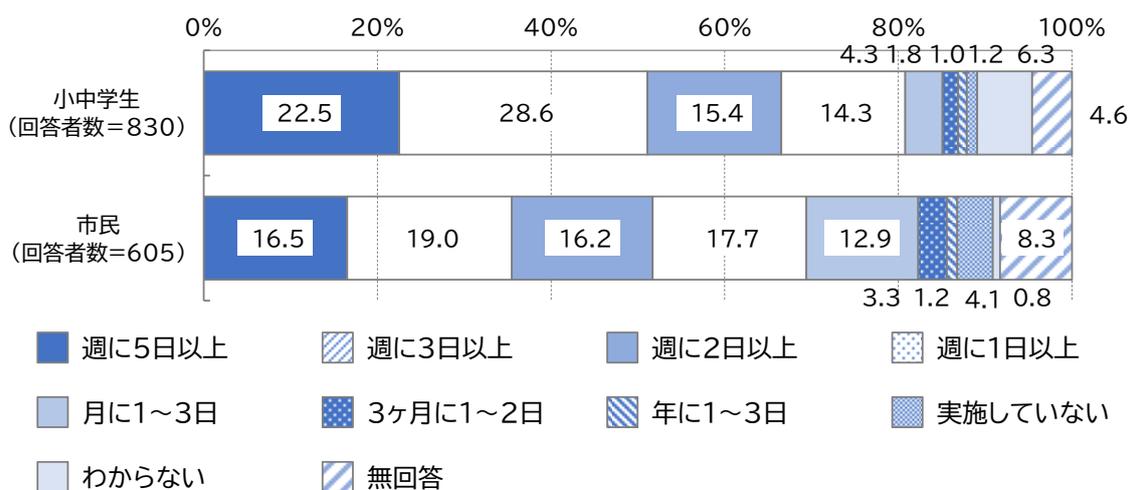
【留意事項】 調査対象における焼津市 LINE 登録者は「スポーツに関心がある」という項目を選択している人であることや、スポーツ協会及びスポーツ推進委員など、スポーツへの関心が高い人が回答していると思われるため、質問項目によっては国などの調査と数値に差が出ていることがあります。

① スポーツの実施状況について

スポーツの実施頻度はどの程度ですか。

小中学生では「週に3日以上」の割合が28.6%と最も多くなっています。「週に5日以上」「週に3日以上」「週に2日以上」「週に1日以上」と回答した人を合わせた「週に1日以上スポーツをしている人」の割合は80.8%となっています。

市民では、「週に3日以上」の割合が19.0%と最も多くなっています。「週に1日以上スポーツをしている人」の割合は69.4%となっています。



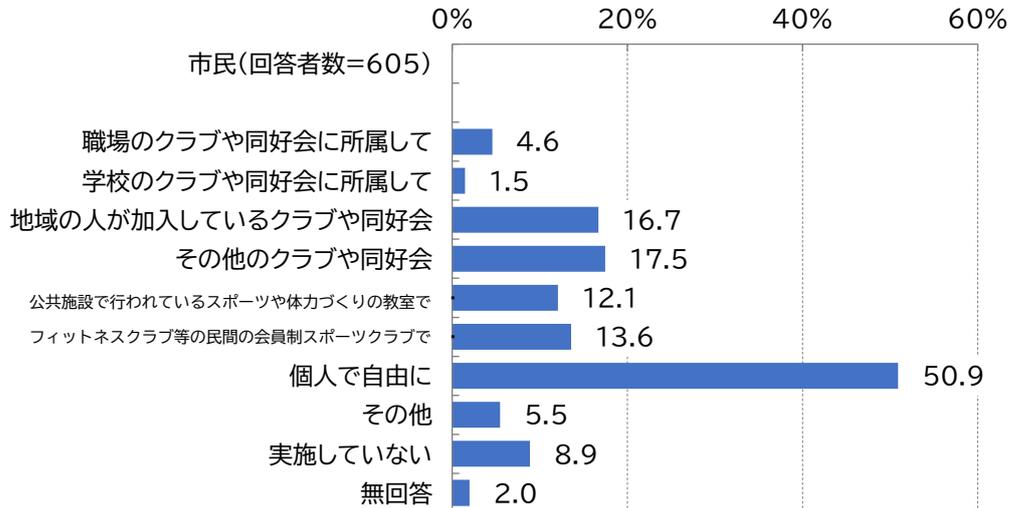
【性別・年齢別】

		%	週に5日以上	週に3日以上	週に2日以上	週に1日以上	月に1~3日	3ヶ月に1~2日	年に1~3日	実施していない	わからない	無回答
小中学生	男性	28.9	31.8	14.9	10.0	3.7	1.2	1.2	1.0	4.4	2.9	
	女性	16.6	25.2	16.1	18.3	5.0	2.4	0.7	1.4	7.9	6.3	
市民	男性	17.5	20.3	16.2	18.2	14.1	3.4	1.7	4.1	-	4.5	
	女性	15.6	18.2	15.9	17.5	12.0	2.9	0.6	4.2	1.6	11.4	

		%	週に5日以上	週に3日以上	週に2日以上	週に1日以上	月に1~3日	3ヶ月に1~2日	年に1~3日	実施していない	わからない	無回答
市民	18~24歳	50.0	12.5	12.5	12.5	-	-	-	-	12.5	-	-
	25~29歳	-	40.0	-	-	60.0	-	-	-	-	-	-
	30~34歳	6.3	18.8	6.3	18.8	18.8	12.5	-	12.5	-	6.3	
	35~39歳	20.0	8.6	20.0	5.7	20.0	5.7	2.9	2.9	-	14.3	
	40~44歳	7.9	15.8	13.2	18.4	7.9	2.6	2.6	10.5	2.6	18.4	
	45~49歳	24.6	8.8	8.8	19.3	17.5	8.8	1.8	3.5	3.5	3.5	
	50~54歳	4.3	14.3	22.9	22.9	18.6	5.7	-	2.9	1.4	7.1	
	55~59歳	15.1	20.5	13.7	16.4	13.7	1.4	2.7	8.2	-	8.2	
	60~64歳	13.0	27.2	14.1	17.4	10.9	4.3	-	3.3	-	9.8	
	65~69歳	15.9	23.2	18.3	24.4	6.1	-	2.4	1.2	-	8.5	
70歳以上	24.0	20.0	20.0	14.4	11.2	0.8	-	2.4	0.8	6.4		

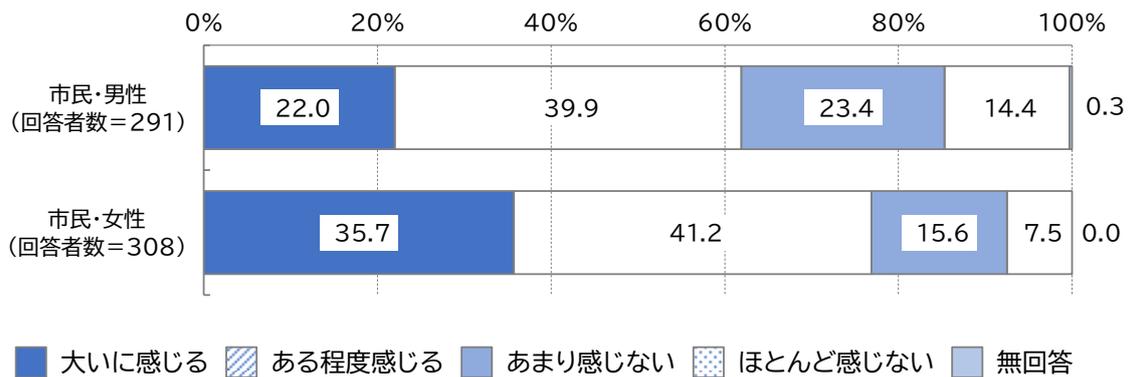
この1年間に、運動やスポーツはどのような形で行いましたか。

市民では「個人で自由に」が 50.9%と最も多く、次いで「その他のクラブや同好会」が 17.5%、「地域の人が入加入しているクラブや同好会」が 16.7%となっています。



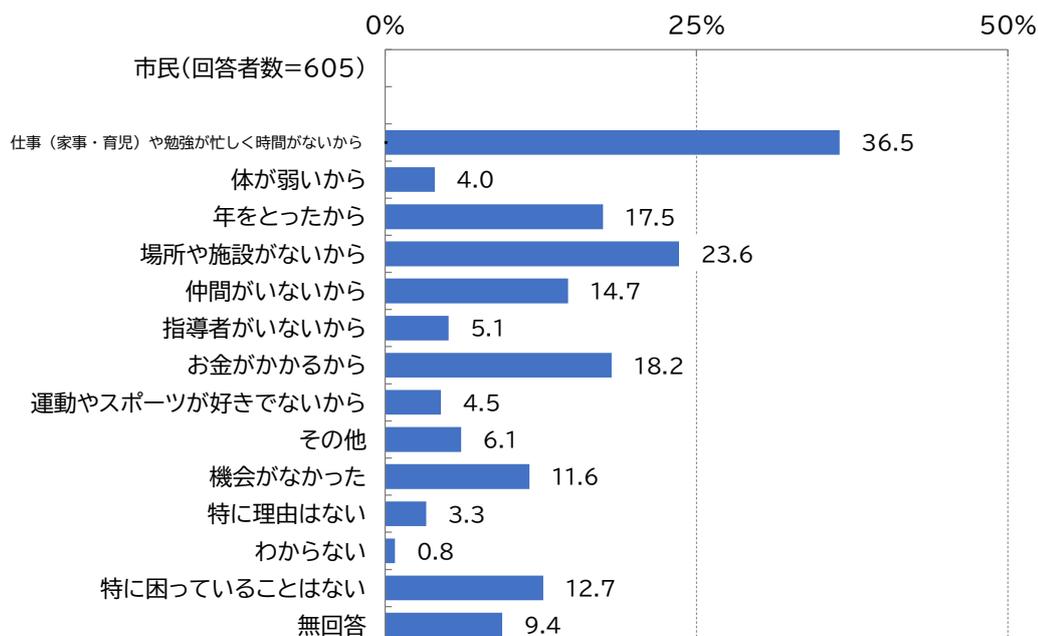
普段、運動不足を感じますか。

市民では、運動不足を感じる人の割合（「大いに感じる」、「ある程度感じる」と答えた人）は、男性で 61.9%、女性で 76.9%となっており、女性の方が割合が高くなっています。



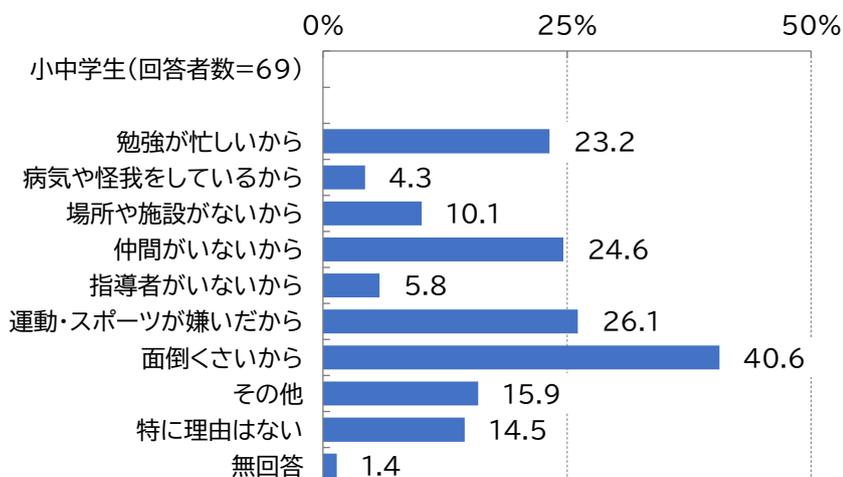
運動やスポーツを行っていない、あるいは、行っているが思うようにできないのはどのような理由からですか。

市民では、「仕事（家事・育児）や勉強が忙しく時間がないから」が36.5%と最も多く、次いで「場所や施設がないから」が23.6%、「お金がかかるから」が18.2%となっています。



この1年間で運動やスポーツを週に1日以上実施できなかった理由は何ですか。

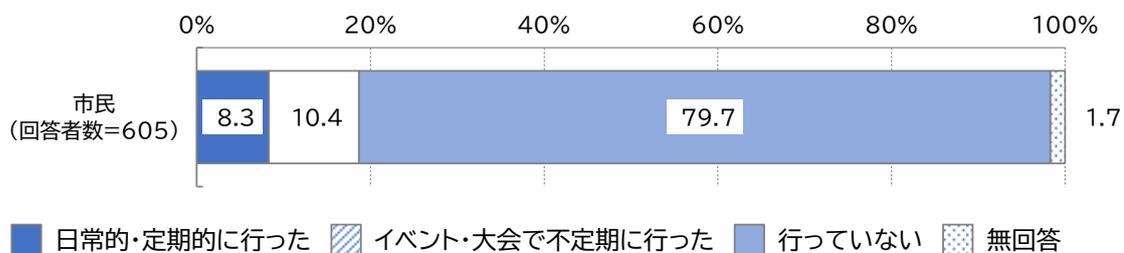
小中学生では「面倒くさいから」が40.6%と最も多く、次いで「運動・スポーツが嫌いだから」が26.1%「仲間がないから」が24.6%となっています。



② スポーツに関するボランティア活動について

スポーツに関するボランティア活動を行いましたか。

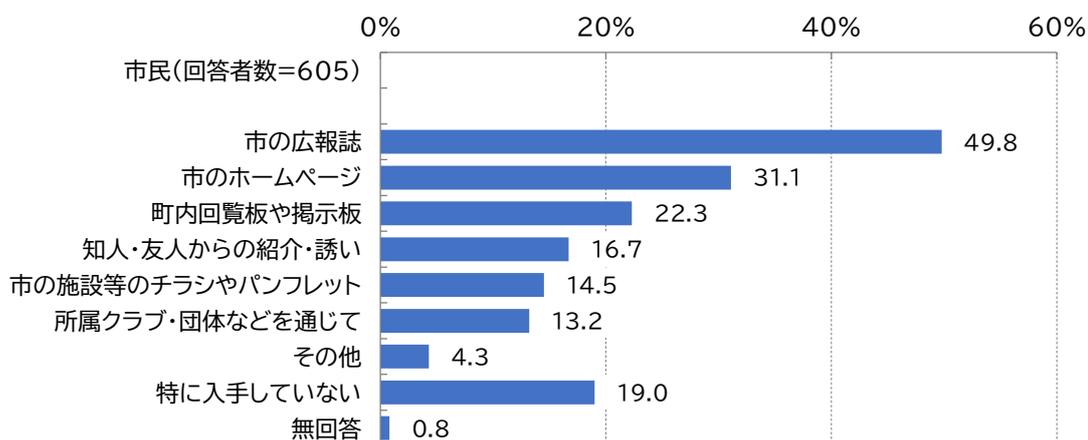
「行っていない」が79.7%と最も多く、次いで「イベント・大会で不定期に行った」が10.4%、「日常的・定期的に行った」が8.3%となっています。



③ スポーツ施設や情報について

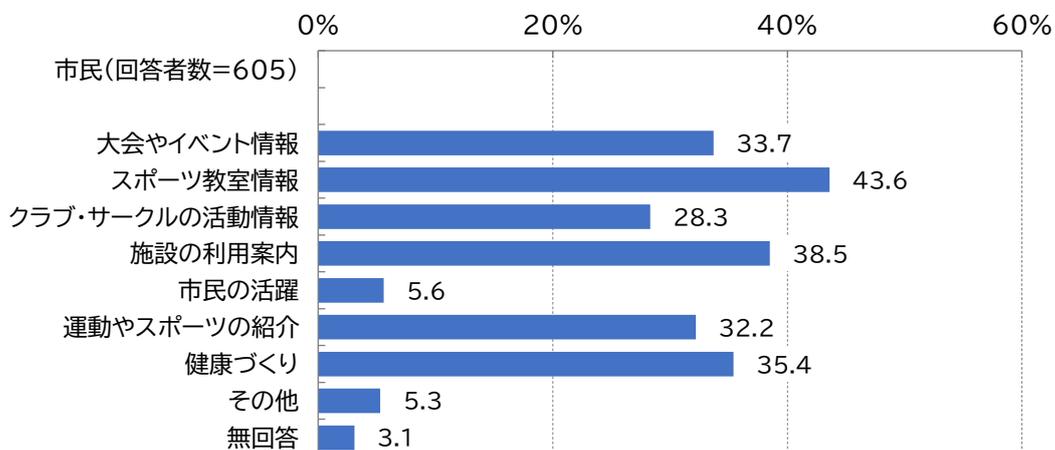
市の運動やスポーツに関する情報をどのように入手していますか。

「市の広報誌」が49.8%と最も多く、次いで「市のホームページ」が31.1%、「町内回覧板や掲示板」が22.3%となっています。



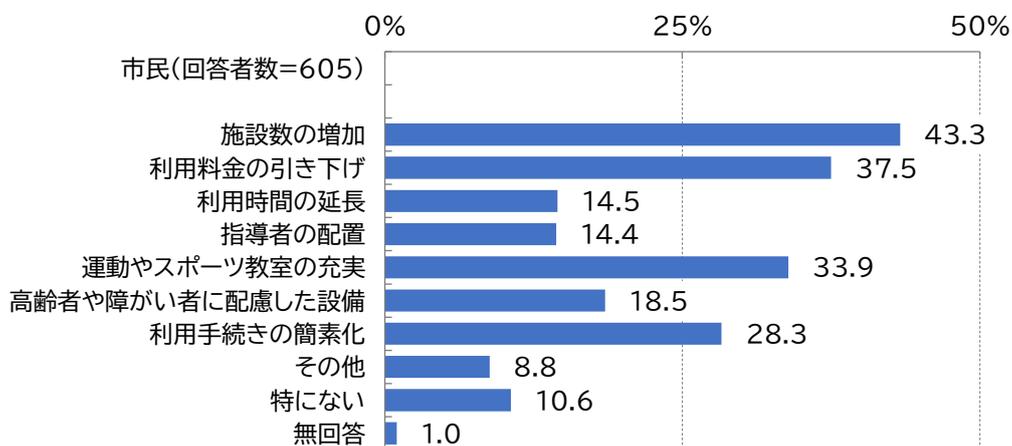
市の運動やスポーツに関する情報としてどのような内容が知りたいですか。

「スポーツ教室情報」が43.6%と最も多く、次いで「施設の利用案内」が38.5%、「健康づくり」が35.4%となっています。



市内のスポーツ施設にどのようなことを望みますか。

「施設数の増加」が43.3%と最も多く、次いで「利用料金の引き下げ」が37.5%、「運動やスポーツ教室の充実」が33.9%となっています



2 今後の課題

焼津市を取り巻く現状や、市民のスポーツ実施状況や意向等の把握のために実施したアンケート調査から見えてきた課題を次のように整理します。

課題① 子どものスポーツへの関心向上と習慣の定着

市民へのスポーツに関するアンケートによると、週に1日以上スポーツを実施していないと答えた小学生が、その理由として多く挙げているものは「面倒くさいから」(40.6%)、「運動・スポーツが嫌いだから」(26.1%)でした。子どもの遊びが多様化していることや、ライフスタイルの変化が要因にあると考えられます。

子どもがスポーツに親しみながら主体的に運動する習慣を身に付けるため、地域や学校、保護者が協力して様々な運動や幅広いスポーツを体験することができる環境を整えることが必要です。

課題② 働く世代や女性のスポーツ機会の充実

市民へのスポーツに関するアンケートによると、運動やスポーツを行っていない、あるいは、行っているが思うようにできない理由として多く挙げているものは「仕事(家事・育児)や勉強が忙しく時間がないから」が36.5%でした。次いで「場所や施設がないから」(23.6%)、「お金がかかるから」(18.2%)と施設や費用面が主な理由として挙げられています。また、普段運動不足を感じる女性の割合は男性と比較すると15ポイントほど高いことが分かりました。

働く世代においては仕事との両立や時間的制約から、スポーツに取り組む機会が限定的であることや、女性においては家事・育児等による制約やスポーツに参加する社会的なハードルの高さが活動を妨げる要因のひとつとなっています。

働く世代や女性がスポーツを通じて健康を促進し、生きがいを見出す機会の充実が求められます。

課題③ 高齢者、障害のある人の健康づくりと生きがいづくり

高齢者や障害のある人が取り組めるスポーツを推進し、今後も継続してスポーツに取り組む環境を整えることは、健康や体力づくりだけでなく、仲間づくりや生きがいづくりにつながる重要なことです。

障害のある人も気軽にスポーツに参加できる環境を整える障害者スポーツ活動の推進や、障害の有無にかかわらず一緒に取り組むことができるスポーツを普及させることが必要です。

課題 ④ 施設整備と利用サービスの向上

これまで競技スポーツレベルの基準を満たした施設から地域における身近な施設まで、スポーツ活動に親しむことができる環境づくりに取り組んできましたが、施設の経年化が進んでいることや、市民アンケートで「施設数の増加」(43.3%)を求める声が多いことから多様なニーズを満たす施設の整備が求められています。市内のスポーツ施設が地域全体の健康づくりの拠点となるよう、市民のニーズ把握に取り組み、多様なライフスタイルに対応できる柔軟性のある施設整備や利用サービスの向上が課題です。

課題 ⑤ スポーツを通じた交流の機会の回復

スポーツは地域の活気を生み出し地域への誇りと愛着を持つことに加え、国際的なスポーツイベントは国内外からアスリートや観客が訪れ地域の観光振興につながります。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、約3年にわたり、あらゆる人と人との交流が減少しました。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行したポストコロナ時代では、コロナ禍により減少した交流の機会の回復が求められます。

課題 ⑥ スポーツを支える体制の強化

持続可能なスポーツ環境には、指導者やボランティアなどのスポーツを支える人材の活躍が不可欠です。地域で活躍するスポーツ関係団体や指導者の中には、更なる専門知識の習得や活動を広げることへの意欲が高いものの、資金面での課題や人材の不足により十分な活動ができていない現状があります。また、市民アンケートによると、およそ8割の市民がスポーツに関するボランティア活動を行っていないことから、スポーツを支える人材の確保・育成が必要となります。スポーツを支える人材の育成と支援体制の強化が課題です。

課題 ⑦ スポーツ関連情報の発信方法の工夫と充実

地域の健康づくりや交流を促進するため、市の広報紙やホームページなどでスポーツ関連情報の発信を行っているものの、現代では、情報の入手手段が多様化しているため、従来の発信方法だけでは十分な情報提供が難しいといえます。また、市民アンケートによると、スポーツに関する知りたい情報として「スポーツ教室情報」(43.6%)、「施設の利用案内」(38.5%)などのスポーツを実施する環境面での情報に加え、「健康づくり」(35.4%)に関する情報発信を求める声も多いことから、市民のニーズに応じた魅力的な情報の発信が求められています。